

「エリシアムの夜」

内藤三千郎

あらすじ

東京・六本木の「エリシウム」は、お立ち台に上がるダンサーをオーディションで選抜することで知られる巨大ディスコテックである。

神谷翔子（21）は、友人の高橋萌子（21）と共にオーディションを受けるが、遅刻したこともあり、萌子は合格するが翔子は不合格となってしまふ。しかし、ダンスに情熱を燃やす翔子は、「エリシウム」を訪ねたおり、そこでクイーンとして君臨する大瀬奈々（28）に誘発され、ダンスフロアで見事なダンスを披露することになる。

翔子のダンスに感銘を受けた総支配人の坂本琢磨（36）は、ディレクターの真谷健二（30）と相談し、翔子を奈々のライバルとして、二人の間でダンス・コンペティションを実施することを計画する。それまで、単なるディスコとして存在していた「エリシウム」が、一転、二人の一流ダンサーがその技と美を競う競技場と化すわけである。A B B A や ビー・ジーズ、マドンナやプリンス、ビートルズやミック・ジャガー、エルビス・プレスリーといった伝説的なグループやエンターティナー達のナンバーに乗って、毎週繰り広げられる二人の華麗なダンス・ナンバーに、客は魅了され興奮する。たちまちこの企画は街の話題となり、テレビが放映するほどに人気が爆発。

客数も倍増し、坂本も真谷も予想以上の評判と成果に大喜びであるが、当然のように翔子と奈々との間には激しいライバル意識が燃え上がる。それは二人の恋愛にも影響を及ぼし、奈々は恋人である坂本との関係を深め、翔子は井垣進也（26）という新しいパートナーを得ることになる。

丁々発止のせめぎ合い、甲乙付け難い二人のパフォーマンスが続くが、しだいにライバル意識は互いへの尊敬の念へと転化していく。そんな中、翔子は奈々が白血病に冒されていることを知る。

病院を訪れた翔子に「あなたと一緒に踊りたかった」と言う奈々。「退院したら一緒に踊りましょう」と約束する翔子。

翌日、翔子はディスコのお立ち台を借りて、奈々の病状を明かし、観客に骨髄バンクへのドナー登録を訴える。それまで翔子に批判的であったダンサー達も、全員が一致してドナー登録に協力するが、その甲斐もなく、奈々は帰らぬ人となってしまふ。

悲しみに打ちひしがれながら、翔子は奈々との約束を胸に、今日も「エリシウム」のスターとして、お立ち台で踊るのであった。

(主な登場人物)

- 神谷翔子 (21) 気鋭のダンサー
- 大瀬奈々 (28) ディスコ・エリシアムのスター・ダンサー
- 高橋萌子 (21) ダンサーであり、翔子の親友
- 坂本琢磨 (36) エリシアムの総支配人であり奈々の恋人
- 真谷健二 (30) エリシアムのディレクター
- 井垣進也 (26) 翔子のダンス・パートナーおよび恋人
- ジョージ富田 (32) エリシアムのDJ
- 加藤勝 (24) 萌子の友人
- 山口正美 (24) ダンサー
- 服部栄子 (23) ダンサー
- 大友愛 (20) ダンサー
- 五十嵐絵里子 (20) ダンサー
- 佐久間エミ (21) ダンサー

1 翔子の部屋(朝)

ブラインドが下がっていて暗い部屋。
隙間から朝日が洩れている。

神谷翔子(二一歳)がベッドでうつ伏せ
に寝ている。

腰から下はシートが掛かっているが上半
身は裸である。

ビキニ焼けした背中が艶めかしく美しい。
携帯電話の着信音。

翔子、呻く。

鳴り続ける携帯電話。

翔子、頭上に手を伸ばして携帯を取る。

翔子「(眠そうな声で) はい」

萌子の声「翔子？」

翔子「萌子？(顔を上げて) どうしたの？」

翔子、携帯を持ち直して上体をよじる。
長い脚がシートの下からまぶしく露出す
る。

萌子の声「(慌てた様子で) 『どうしたの？』
じゃないわよ。どこにいるの？」

翔子、がばりと上体を起こして携帯の時
刻を確認する。形のいい乳房が露になる。

翔子「(顔をしかめて) やばー！」

萌子の声「やばって、もうみんな集まってる
わ」

翔子「(泣きそうな声で) あーん、もう」

翔子、携帯を放り投げ、ベッドの上に仁
王立ちになる。

パンティ一枚の姿である。均整のとれた
見事な肢体。

翔子、短髪を両手で掻きむしりベッドか
ら飛び下りる。

ブラインドを開けると、太陽の光が部屋一杯に溢れる。

メインキャスト及びメインスタッフのクレジットとタイトルが流れ始める。

同時に、挿入歌（THE HUSTLE）始まる。

2 タイトルバック・オーディション会場に

急ぐ翔子のモニタージュ

洗面所の鏡の前でブラジャーをする翔子。翔子、歯を磨く。

冷蔵庫を開け、牛乳を箱からがぶ飲みする翔子。

荒々しく髪を梳かす翔子。

翔子、素早くジーンズを履き、Tシャツを着る。

レオタードとダンスシューズを入れたシヨルダーバッグを片手にスニーカーをつっかけ、玄関から走り出る翔子。

もう一方の手にはバナナを握っている。自宅のマンションの前でバナナを振ってタクシーを拾う翔子。

翔子、タクシーの中で、バナナを頬張りながら腕時計を見る。

抜ける様な晴天の下、翔子に乗せたタクシーが東京の街を疾走する。

タクシーの中で慌てて化粧をする翔子。大きな倉庫のようなビルの前でタクシーは停まり、翔子が金を払って飛出す。

翔子、そのままビルの中に駆け込んで行く。

クレジット及び挿入歌終り。

3 オーディション会場の劇場・中

正面に照らし出された大きなステージがありレオタード姿で腰に大きなゼッケン番号を付けたダンサー達が三十人ほどずらりと並んでいる。

皆、均整のとれた肉体をもった美しい女性である。

中に高橋萌子（二二歳）、山口正美（二四歳）、服部栄子（二三歳）、大友愛（二〇歳）、五十嵐絵里子（二〇歳）、佐久間エミ（二二歳）の顔もある。

ステージに向った暗い観客席に坂本琢磨（三六歳）、真谷健二（三〇歳）、大瀬奈々（二八歳）が座っている。

坂本はデザイナースーツを着、ネクタイを締め、一見エリートビジネスマン風である。

真谷は長髪でラフな格好。

二人とも若々しくハンサムである。

奈々はパンツスーツを身を包んでエレガント。氷のような美しさの中に熱いものを秘めていることがその表情から窺われる。

真谷「（大声で）よおし、みんな準備いいな」

真谷の掛け声で、ダンサー達が横にざわざわと広がる。

翔子、そのステージの上に袖からドタドタとTシャツとジーンズ、スニーカー姿のままに乱入する。シヨルダーバッグを肩に担いでいる。

翔子「（息を弾ませて）すみません、遅くな

りました」

翔子、ペコリと客席に向かって頭を下げ
る。

それを白い目で見るダンサー達。

真谷「(迷惑顔で) なんだ君は？」

翔子「神谷翔子です」

真谷「名前を聞いてるんじゃないだよ」

ダンサーの間からクスクス笑いが漏れる。

翔子「(戸惑いながら) あの、一時審査を通

った者ですけど」

真谷「(怒った顔で) そんなことじゃない。

その格好はなんだって聞いているんだ」

顔を見合わせ笑いを堪えるダンサー達。

呆れ顔の坂本と奈々。

翔子「(顔を赤くして) あの、着替えてきてい
いですか？」

真谷「(突慥貪に) 君のこと待ってる時間なん
かないんだよ。ステージの袖に(指差して)
ゼッケンがあるから、それを腰につけて、
服装はそのままでもいいから並んで」

翔子、シヨルダーバッグを後ろに投げ下
ろして一度ステージから袖に消え、ゼツ
ケン番号30番を腰につけて再登場。そ
のままバツが悪そうにダンサーの列に入
る。

ゼツケン番号21番をつけた萌子、翔子
に目で笑いかける。

翔子、それを受けて、舌をペロリと出し、
鼻に皺をよせて苦笑する。

真谷、席を蹴って立つと、ステージに駆
け上がり、ダンサー達と向き合う。

真谷「いいか。まず俺が最初に踊るから、君

達にはそれを真似して踊って欲しい。一度見ただけでどれだけ踊れるものか見てみたんだ。完璧が無理なことは、わかっている。だが、最善を尽くして欲しい。いいな？」

不安そうに頷きあうダンサー達。

真谷が奈々に合図すると挿入歌（LONG
G COOL WOMAN IN A
BLACK DRESS）が始まる。

真谷、曲に合わせて踊る。

達者な踊りだが、どこか滑稽である。

リズムを取りながら一生懸命見つめるダンサー達。

翔子は必死に笑いを堪えている。

真谷、ダンスを終え、肩で息をしながら

ダンサー達の方に振り向く。

真谷「（手を叩きながら）よし、じゃあやってみよう」

真谷、ステージから飛び降り、客席に駆け戻る。

坂本と奈々、満足そうに微笑みながら真谷を見る。

翔子とダンサー達、緊張気味に身構える。

真谷の手がさつと上がり振り降ろされる

と再び挿入歌（LONG COOL
WOMAN IN A BLACK
DRESS）が始まる。

4 踊るダンサー達のモンタージュ

ステージで踊るダンサー達。

ステージを見つめる真谷、坂本、奈々。

レオタードに混じってジーンズ姿で窮屈

そうであるが形よく踊る翔子がいる。

踊り続けるダンサー達。
真谷に耳打ちする坂本。
坂本と会話を交わす奈々。
踊り続けるダンサー達。

5 元の劇場内

ステージの上には踊り終わった後のダンサー達。
ー達。

皆、息を弾ませ汗ばんでいる。

Tシャツの裾をばたばたさせ風を入れて
いる翔子。

手で汗を拭う萌子。

客席では真谷、坂本、奈々が顔を突き合
わせて何かひそひそと相談している。

何度か大きく頷き、手早く紙に何か書込
んでステージに駆け上がる真谷。

真谷「(ダンサー達に向って) どうも皆さん
ご苦労様でした。まあ今回はデイスコとい
うことで今までのオーディションとは勝手
が違ったかもしれませんが、採用は十三人
ということ、採用されなかった方もこれ
にめげずに頑張ってください。えーと、そ
れでは発表いたします」

緊張した面持ちのダンサー達。

真谷、手に持った紙から番号を読み上げ
る。

番号が呼ばれる度に飛び上がったたり、手
を握りあったり、抱きあって喜ぶダンサ
ー達。

選ばれたダンサーの中に山口正美、服部
栄子、大友愛、五十嵐絵里子、佐久間エ
ミの顔。

真谷「21番」

萌子の番号が呼ばれる。

萌子「わーっ」

笑顔で翔子に抱きつく萌子。

翔子「(嬉しそうに) やったじゃーん」

翔子と萌子はハイファイブを交わし、手を握りあいながら翔子が呼ばれるのを待つが、真谷は翔子を呼ばずに番号を読み終える。

萌子「(悲しそうな顔で) ごめんね、翔子」

翔子「(明るく) よかったじゃん、萌子。がんばってね」

真谷「(全員に) 選ばれた者は打ち合わせをするから残って。あとの人はご苦労様でした」

シヨルダーバッグを拾い上げて、オーディションに漏れたダンサー達とすごすごとステージを去る翔子。

背後で残ったダンサーに今後の手筈を説明する真谷の声がする。

真谷の声「君達はこれからスターになるんだ。客の目は君達に集中する。それらしく振る舞って欲しい・・・」

6 ディスコ「エリシウム」店内

ダンスフロアへお立ち台(夜)

挿入歌 (I'M GONNA GET

YOU) が流れている。

ダンスフロアが三層からなる大きなディスコである。

最新のファッションを着込んだ男女の熱気でむんむんしている。

幾つかのお立ち台が頭上高くそびえ立ち、
超ミニの挑発的なコスチュームを着たダンサー達が踊っている。
その中に熱心に踊る萌子の顔。
見上げる男達の熱い視線。

7 同・DJブース

DJのジョージ富田(三二歳)の独壇場。
はつらつとして楽天的な顔をしている。
ジョージ富田「えー、今夜も皆さんご機嫌いかがでしょうか？これだけ美しい女性の方がいらっしゃいますと目がくらくらしてしまいますけどね。そうも言ってもらえませんか？今夜もがんばりましょう！」
挿入歌(PLAY THE FUNKY MUSIC) 始まる。

8 同・ダンスフロア／お立ち台

フロアから歓声上がる。
踊る若者達。そしてお立ち台のダンサー達。

9 同・坂本のオフィス

スーツ姿の坂本がデスクの後ろに座り、ソファに脚を組んで腰掛けた真谷と話している。
坂本「いや、だけどな問題はこれからだよ」
真谷「贅沢だな。大成功じゃないですか」
坂本「確かに客の入りはいいよ。女の子達もよくやってくれてるし」
真谷「ずばりでしょ？ 彼女達が目的で毎日来る客だっているんですよ。ファンが定着

しつぷある証拠ですよ。それより奈々はどうなんですか？」

坂本「あいつは初めから納得してるさ」

真谷「他の子が引き立て役みたいなもんですからね」

坂本「女王様だからな」

真谷「(笑って) 相変わらず」

坂本「引き抜かれることも有りうるけどな」

真谷「あったって代わりはいるでしょう？」

坂本「そこなんだよな。ダンサーに代わりがあるってことはこのディスクにだって代わりがあるってことだ」

真谷「そんなことないですよ。規模にしたって、音楽のセレクションにしたって、女の子だって最高ですよ」

坂本「いや、いまいちスパイスが足りない」

真谷「スパイス？」

坂本「ああ、なんかこうピリツとした企画がないかな」

思惑顔の坂本。

10 同・ダンスフロア入り口付近

挿入歌 (JIVE TALKING)
が流れている。

超ミニの翔子が入ってくる。

男達の視線が一斉に翔子に集まる。

男達には目もくれずに、踊る若者たちを

冷笑的に見つめる翔子。

いつのまにお立ち台を降りたのか、翔子を見つけた萌子が駆け寄ってくる。

萌子「(嬉しそうに) 翔子！」

萌子、翔子の手を取って飛び跳ねる。

翔子「(笑いながら) いいの? 降りてきちゃって」

翔子、萌子が先刻まで踊っていた空っぽのお立ち台を見上げる。

萌子「ブレークよブレーク」

翔子の手を引いて空いたテーブルへと導く萌子。二人をもの欲しそうに目で追う男達。

11 同・ダンスフロア〜テーブル

萌子、通りかかったウェイトレスに何か言う。ウェイトレスが頷いて去る。

萌子「(微笑みながら翔子に) でもすごく嬉しい、来てくれて」

翔子「(フロアを見回して) 噂には聞いてたけど盛況ね」

萌子「今日なんか少ないほうよ」

スーツに身を固めドリンクを手にした男が寄ってきて

男「(にやにやしなながら) おは、萌子」

萌子、冷たい目で男を見る。

男「(翔子を見ながら馴れ馴れしく萌子に) 友達? 紹介してよ」

萌子「(迷惑そうに) うるさいわね。今、忙しいの。後にして」

男、ドリンクを片手で持ち上げて苦笑いしながら去る。

翔子「誰なの?」

萌子「(顔をしかめて) 知らないわ。時々寄ってくるのよ」

ウェイトレスがドリンクを二つトレイに乗せて持ってくる。

ドリンクを手に取る翔子と萌子。

萌子「(ここにこして) 取りあえず乾杯！」

翔子「(微笑みながら) よろしく」

グラスを上げて、ドリンクを飲む二人。

挿入歌 (DANCING QUEEN)

始まる。

翔子、座ったまま身体でリズムをとる。

萌子「もう踊った？」

翔子「ううん。今来たばかりだから」

萌子「早く踊りなよ。みんなびっくりするか

ら。翔子みたいに踊れる子、一人もいない

わ

翔子「(鼻にしわを寄せて) ABBBAじゃね」

萌子「リクエストしようか？」

翔子「いいの？」

萌子「(ニコツとして) ちょっと待って」

萌子、携帯をポケットから取り出して

電話をかける。

何やらジェスチャー付きで長々と説明す

る萌子。

萌子「(電話を切って翔子に) オークー」

翔子「何リクエストしたの？」

萌子「二人で踊れるやつ」

笑い合う翔子と萌子。

翔子「それより、どうなの調子は？」

萌子「電話で言ったでしょ？ 踊ってお金が

貰えるんだもん。文句言えない」

翔子「(羨ましそうに) いいな、萌子」

萌子「例のミュージカルのオーディション受け

るんでしょ？」

翔子、曖昧に頷く。

萌子「どうしたの？」

翔子「あんまり興味ないんだ」

萌子「どうして？」

翔子「決められた踊りって性に合わないのかも」

萌子「まだそんなこと言ってる」

加藤勝（二四歳）が、テーブルの前を通りかかる。

萌子、慌ててドリンクを口からはなす。

萌子「（大声で、手を振って）まさる！」

勝、少し驚いたようにしてテーブルに来る。

小柄で機敏そうな童顔の男である。

萌子、立ち上がって勝の手を取り、椅子に座らせる。

萌子「（勝に）ねえねえ、話したでしょ？これが

親友の翔子」

勝、好奇の目で軽く翔子に会釈する。

勝「（緊張気味に）よろしく」

翔子、ニッコリ微笑んで会釈を返す。

萌子「（二人を面白そうに見ながら勝に）綺麗でしよう？」

勝、翔子を見ながら照れ笑いする。

萌子「（冗談っぽく勝に）駄目よ、恋しちゃ。翔子はレベルが違うんだから」

勝「（笑いながら萌子に）ばか言うな」

翔子「（笑って萌子に、ほとんど同時に）やめてよ」

挿入歌（1999）始まる。

勝と萌子、期待していたように顔を見合わす。

翔子、「リクエストはこれ？」といったふうに見る。

萌子「（首を横に振って）女王様よ」

ジョージ富田の声「えー皆さん、大変お待ち
せしました。当、エリシウムが誇るデイス
コ・クイーン、大瀬奈々さんです」

12 同・ダンスフロア〜中央お立ち台

中央の一番高く大きなお立ち台にスポッ
トライトが当たり、女王然と着飾った大
瀬奈々が登場する。
場内から上がる拍手と歓声と溜め息。
お立ち台で見事なダンスを見せる奈々。
フロアで踊る客。
啞然と奈々に見とれる客。奈々をバック
に携帯で自撮りする客。

13 同・ダンスフロア〜テーブル

身体でリズムを取りながら次第に熱を帯
びてくる翔子の目。
奈々をしっかりと睨みつけている。

萌子「(翔子に)次、私達よ。準備いい？」

翔子、少し目を丸くして頷く。
翔子の肩を軽く触り、勝にニッコリ笑い
かけてテーブルを離れる萌子。
萌子の後を追うように、ドリンクを残し、
勝に「バイバイ」と手を振ってテーブル
を離れダンスフロアに向う翔子。
面白そうに見送る勝。

14 同・ダンスフロア〜中央お立ち台

挿入歌(1999)が終り、ポーズを決
める奈々。
観客の中から大きな拍手が起こる。
間髪を入れずして次の曲が始まる。

15 同・ダンスフロア（第三お立ち台）

挿入歌（LIKE A VIRGIN）
始まる。

ジョージ富田の声「さあ今度は萌子ちゃんのリクエストです。みんな第三お立ち台、注目ですよ〜」

第三お立ち台にライトが当たり、下着同

然の姿で挑発的に踊り始める萌子。

中央お立ち台の奈々が怒った表情で萌子の方を見ている。

萌子がフロアを指差すとライトがフロアに当てられ、そこに踊る翔子の姿。

美しく官能的な踊りにフロアに穴が空いたように客が一步下がる。

フロアとお立ち台の間で、見事なコーデイネーションを見せる翔子と萌子。

踊ることを忘れ、魅せられたように二人を見つめる客達。

その中に、驚きに満ちた勝の顔。

好奇に満ちた真谷の顔。

感心して薄笑いを浮かべた坂本の顔。

目を吊り上げた奈々の顔。

曲が終わると満場喝采の渦となる。

怒ったように大股で立ち去る奈々。

16 同・坂本のオフィス

真面目な顔の坂本がデスクの後ろに座り、その前にふて腐れた表情の萌子が先刻踊ったままの姿で立っている。

その周囲を苦い表情でぐるぐる歩き回っている真谷。

真谷「(萌子に) 一体誰があんな勝手なこと

していいって言ったのか聞いてるんだ」

萌子「誰も」

真谷「そうだろう」

萌子「(不満そうに) でも、しちゃいけないと
も聞いてませんけど」

真谷「(声を荒げて) 常識じゃないか」

萌子、びっくりしたように坂本を見る。

無言で萌子を見つめ返す坂本。

真谷「いいか。ここのスターは奈々なんだぞ。
彼女がいるからここに来るって客が沢山い
るんだ。そのスターを出し抜くような真似
をしてだな・・・」

坂本「(真谷の言葉を遮って) 健二、まあそ
う言うなよ」

真谷「しかし、坂本さん・・・」

坂本「(明るい顔で) 萌子ちゃん、君と一緒
に踊ってたあの子、友達なの？」

萌子「そうです」

坂本「ここで働く気はないかな？」

真谷、驚いたように坂本を見る。

萌子「(真谷をちらっと見て) でも、オーディ
ション落ちた子ですけど」

坂本と真谷、怪訝そうに顔を見合わす。

萌子「遅れて来た子です。Tシャツとジーンズ
で」

なるほどという顔の坂本と、渋い表情の
真谷。

坂本「それは我々のミスだな。とにかく彼女を
呼んできてくれないか。うちで雇いたいから
って」

萌子「(不安そうに) あの、私は首ですか？」

坂本「(笑いながら) いや、そんなことないよ」

萌子、にっと笑ってペコリと頭を下げ、部屋を出る。

真谷「坂本さん、どういうつもりですか？」

坂本「(爽やかに笑って) スパイスだよ、スパ

イス」

真谷「(不審そうに) どういうことですか？」

坂本「わかるだろう。あの子と奈々をぶつけるんだ」

真谷「・・・」

坂本「見ただろう、あの子のダンス。大した才能だぜ。ちょっと荒いが踊りも身体も奈々のライバルとしては申し分ない。奈々とダンスフロアで対決させるんだ。今日はどっちが勝つか。週一でもいい。それだけで客が集まる」

真谷「でも、奈々が納得しますかね」

坂本「(不敵な笑いを浮かべて) するさ。俺

はあいつを知ってる。敵前逃亡するような

奴じゃない。女王の座を守るために必死に

なるよ」

真谷「振付けは？」

坂本「それは必要に応じた。どっちかが勝ちすぎて面白くなる。それに最終的には奈々に勝たせたい」

ノックがあつてドアが開き萌子が遠慮がちに首を出す。

萌子「いいですか？」

坂本「ああ、いいよ」

萌子と翔子が入ってくる。

翔子、ソファに座っている真谷をちらっと見て「ふんっ」とした表情。

坂本「(微笑みながら) やあ、よく来てくれたね」

翔子、むっとしたまま坂本を見ている。

坂本「さっきの踊り見せてもらったよ。どこで憶えたの？」

翔子「子供の頃、バレエをしてました。あとは自分で」

坂本「(感心したように) 自己流か。大したもんだ。名前はなんていうの？」

翔子「前に言いました」

萌子、はらはらしながら翔子と坂本のやり取りを見ている。

坂本「(笑いながら) そうだけど、もう一度教えてくれないか？」

翔子「(無然として) 神谷です。神谷翔子」

坂本「神谷君か。どう、うちで働く気はない？」

翔子「(ちらつと真谷を見て) 私、オーディション落ちていますけど」

坂本「(意味あり気に笑って) わかってるよ」
翔子「(不審そうに) どういうことですか？」

坂本「実はね、知ってると思うけど、うちのデイスコのコンセプトはダンスをする場所であると同時にダンスを観る場所でもあるというところにある。それをもっと劇的にしたいんだ」

翔子、「わからない」といった顔で真谷と萌子を見る。

坂本「今、うちのスターは奈々で、そのサポート的な役割をその萌子ちゃんや、他のダンサーが担ってくれてるわけなんだけど、どうだろう、君にもう一人のスターになって欲

しいんだ」

びっくりしたように翔子を見る萌子。

翔子「(驚いて戸惑いながら) どうして私が？」

坂本「君なら奈々と対等に踊れると思ったからだ。内容としては君と奈々のコンペティション的なものを考えてる。つまり奈々が踊ったあとで、君が踊る。その逆でもいい。それで互いのダンスを競って欲しいんだ」

考えるようにうつむく翔子。

萌子「(明るい顔で) 凄いいじゃん、翔子。やりなよ」

坂本「どうかな？ 給料だって悪くないよ」

翔子「意を決して顔を上げる」 ひとつ条件があります」

坂本「なんだい？」

翔子「振り付けは自由にやらせて下さい」

坂本、真谷を見る。

顔を強張らせて黙っている真谷。

坂本「(面白そうに) いいだろう」

翔子「(ニツと笑って) 有難うございます」

坂本「じゃ、来てくれるね？」

翔子「(嬉しそうに) はい」

坂本「細かい打ち合わせは後にして、明日から来れるかな？」

翔子「わかりました」

翔子、ペコリと頭を下げて萌子とオフィスを出る。

真谷「(無表情で) いいんですか、あそこまで条件飲んじゃって」

坂本「うまくいかなきゃ首にするだけだ。とにかく彼女は未知数だよ。ちょっと自由にやらせてみよう」

渋い顔で頷く真谷。

遠くを見るような目でほくそ笑む坂本。

17 同・ダンスフロアへお立ち台（何日か後の夜）

挿入歌（KEEP IT COMING
LOVE）が流れている。
踊る若者達。お立ち台のダンサー達。

18 同・翔子の控室

鏡の前で派手なメイクを仕上げている翔子。以前にも増して露出度の高いコスチ
ュームである。
ドアがノックされ、萌子が緊張した顔を
出す。

萌子「もうすぐよ、準備できてる？」

翔子「（立ち上がって）うん」

萌子、翔子の両手を握って

萌子「Good Luck」

翔子「（そわそわしながら）うん、ありがとう」

19 同・ダンスフロアへ中央お立ち台

挿入歌（EXPRESS YOURSELF）が始まる。
曲のイントロと共に中央お立ち台が照ら
し出され、男装した大瀬奈々の姿が黒グ
ロと浮かび上がる。
ダンス開始と共にフロアから沸き上がる
溜め息にも似た歓声。奈々を背景に自撮
りする客。

真剣な目で見つめる真谷。

共にフロアで踊る者達。

奈々を見上げて呆然とする者達。
ダンス終了と同時に次の挿入歌（I
WANT YOUR SEX）のイント
ロが始まる。

20 同・ダンスフロア（第一お立ち台

第一お立ち台の上に翔子の姿。
再度、歓声上がる。

翔子が繰り広げるストリップパー同然のダンスに息を飲んで見とれる観客。
啞然とする奈々と他のダンサー達の顔。

21 同・DJブース

翔子のダンスを楽しそうに笑いながら見ているジョージ富田の顔。

22 同・ダンスフロア（第一お立ち台

踊り続ける翔子。
納得顔の萌子。
魅入られる客。
中に満足そうな坂本の顔がある。

23 同・ロッカールーム

踊り終えたダンサー達が着替えている。
正美と栄子が話しているのを少し離れた
ところで萌子が聞いている。

正美「だけどさ、翔子のあれ、やりすぎよ」
栄子「（くすくす笑いながら）ストリップ劇場
じゃないんだからね」

正美「（意地悪く）ダンスで勝負できないから、
仕方ないんじゃない？」

萌子、キツとすると、他のダンサーを押

しのけて二人のところへ来る。

萌子「(いきりたって) どこがいけないって言うのよ? 客の反応見てたでしょ?」

「栄子、びっくりして正美を見る。」

正美「(反発して) 男の下半身の反応でしょ? 下品よあんなダンス」

萌子「(うすら笑って) 自分だって股開いて踊ってるくせに、何言ってるの?」

正美「私は自分のダンスをあそこまで下げないわ。最低よあれ」

萌子と正美を見ていたエミが寄って来る。

エミ「やめなよ、二人とも」

萌子「(正美に) あんたの下手な踊りと一緒にしないでよ」

正美「(むっとして) 私はオーディション落ちてませんから。どうせ支配人と寝て取った仕事でしょ」

萌子「なんだって? もう一度言ってみろよ!」

萌子、正美に掴みかかる。

慌ててエミが間に入る。

それに栄子、愛、絵里子に加わり、取っ組みあう萌子と正美を引き離す。

24 ファミレス・表(深夜)

翔子が外の夜景を見ながら店内でゆっくりコーヒーを飲んでいる姿が見える。ブラウスとストラックスのオーソドックスな服装。

25 同・店内

コーヒーを啜る翔子。
萌子が入ってくる。

萌子「(明るく手を振って) ごめん、遅くなっ
て」

翔子「(小さく微笑んで) ううん」

萌子が座ると、ウエイトレスが注文を取
りに来る。

萌子「私、ホットミルク」

ウエイトレスが去り、メニューをしまう
萌子。

萌子「翔子、すごかったわ」

翔子「(寂しそうに) そう?」

萌子「うん、翔子の勝ちね」

翔子、黙って首を振る。

萌子「(心配そうに) どうしたの?」

翔子「(微笑んで) 何でもない。疲れただけよ」

萌子「次はいつなの?」

翔子「来週の土曜日ね」

ウエイトレスがホットミルクを持って来
る。

翔子「(しんみりと) 私、こういうのって向い
てるのかな」

萌子「どういう意味?」

翔子「だって、私、奈々さんが嫌いなわけじゃ
ないのに、うまく支配人に乗せられて彼女と
やりあったりして」

萌子「(あきれたように) 何よ、らしくないわ
ね。あんなに張りきってたの誰? 好きな踊
りができて、高い給料貰って、文句ないじゃ
ない?」

翔子「(納得しないようすで) うん」

萌子「翔子、スターになりたかったんじゃない
の?」

翔子「他人を蹴落としてまで?」

萌子「結果的にそうなるだけでしょ？ 実力のある者が勝ち残るの。うかうかしてると翔子だって蹴落とされるのよ」

翔子「（静かに）そうね」

萌子「奈々だってわかっているとわ。言っただでしょ？ 彼女、芸能界から誘いがしょっちゅう来るの。でも、自分がやりたいのはディスクだって。踊れるだけ踊りたいって。踊れなくなったら他のこと考えるって言ってる。傲慢で好きになれないけど、そういうところは尊敬してるの」

翔子、急に顔を上げて驚いたように入り口の方を見る。

振り返る萌子。

奈々が一人でつかつかと翔子と萌子のテーブルに来る。

奈々「（立ったまままで翔子にずけずけと）あなたに言いたいことがあるの」

翔子、黙って奈々を見上げる。

奈々「あんな踊りで私に勝ったなんて思わないでね。肌を出して男の目を引くなんてそこらの高校生だってしてることよ。もっとレベルの高い踊りで勝負して。こっちだって張り合えないわ」

萌子がむっつとして立ち上がる。それを制する翔子。

奈々「来週は、オールディーズナイトよ。わかるでしょ？ 今日みたいに逃げないで真っ向からかかってらっしゃい」

言い捨ててさっさと立ち去る奈々。

あきれ顔で座り直す萌子。

薄ら笑いを浮かべて見送る翔子。

萌子「なにあれ？」

翔子「(不敵に笑って) 相当、こたえたのね」

萌子「オールデイズナイト？」

翔子「うん、五〇年代、六〇年代中心の音楽ってこと」

萌子「えーっ、聞いてないなあ」

翔子「明日あたり真谷さんから話があるんじゃない？(脚を前に投げ出して) あーあ、何かすかっとする事ないかな」

萌子「(我が意を得たりと) 任せといて」

萌子、携帯を出して電話をかける。

萌子「(翔子にウィンクして) もしもし、勝？
ねえ、今からとっても素敵な女性二人と遊ばない？」

26 六本木通り(深夜)

翔子と萌子に乗せてクルージングする加

藤勝のムスタングコンバーチブル。

挿入歌(DANCING IN THE STREET)が勝のカーラジオから流れる。

曲に合わせて身体を動かし、上半身乗り出しながら車上から投げキスをしたりして、はしゃぎ回る翔子と萌子。

愉快そうに笑っている勝。

びっくりして見ている通行人や、携帯で撮影する通行人。

面白そうに見ているタクシートの運転手達。

27 ディスコ「エリシウム」ダンスフロア

くお立ち台(数日後の夜)

オールデイズナイトである。

挿入歌 (TWIST AND SHOUT)

T) が流れている。

フロアで踊る若者達と、お立ち台で踊るダンサー達。

28 同・DJブース

ジョージ富田がヘッドフォンを片耳にダンスフロアに見入っている。

ドアが開いて、CDを手にした萌子が入ってくる。

萌子「(CDを手渡して) これ翔子の、よろしくね」

ジョージ富田、ニッコリ笑って萌子にウインクする。

萌子「奈々のは、もう貰ってるの?」

ジョージ富田、ミキシングボードの上のCDを手に取って見せる。

ジョージ富田「ちゃんとミックスしてあるよ」

萌子「(不思議そうに) ミックス?」

ジョージ富田「メドレーなんだ。オースディーズの」

萌子「(眉を寄せて) メドレー? そんなのありなの?」

ジョージ富田「ペアで踊るらしいよ。奈々と真谷さんが」

萌子「(驚いて) えっ?」

慌ててDJブースを出る萌子。

肩をすくめるジョージ富田。

29 同・ダンスフロアへ第一お立ち台

前の曲が終り、静寂の中に現れる翔子。

白いTシャツにピチピチのジーンズを穿

いている。

挿入歌（HOUND DOG）開始。
エルヴィスに似た踊りを見せる翔子。
フロアから手拍子と喝采が起こる。
一緒に踊る若者たち。携帯で撮影する女
達。魅せられる男達。
不安そうに見上げる萌子の顔。

30

同・ダンスフロアへ二階踊り場

翔子のダンスが終るとスポットライトが
二階のダンスフロアに続く踊り場に当た
る。

奈々と真谷が五〇年代を彷彿とさせる衣
装で立っている。

挿入歌（メドレーで・WIPE OUT

・THE TWIST・GREAT B
ALLS OFFIRE・DO YOU
LOVE ME・GOOD GOLLY
MISS MOLLY・LET'S T
WIST AGAIN）開始。

息の合ったペアダンスを見せる奈々と真
谷。

共に踊る若者たち。携帯で撮影する客。
ダンス終了と同時に大きな拍手が湧く。

31

同・翔子の控室

翔子、ロッカーの扉を荒々しく閉め、拳
で二、三回叩く。
悔しさと怒りが顔に表れている。

突如目を剥いて振り返り、大股で控室を
出ていく翔子。

32 同・廊下

走るように廊下を歩く翔子。途中、萌子とすれ違おうが、見向きもしない。

萌子「(気圧されて) 翔子、どこ行くのよ？」

翔子、黙って大股で歩いて行く。

慌てて後を追う萌子。

奈々の控室の前に来る。

深呼吸をするとノックもせずいきなり

ドアを開ける翔子。

鏡の前でメイクを落としていた奈々が、

はっと振り向く。

33 同・奈々の控室

翔子、奈々の前に仁王立ちになる。

その後ろに心配そうな顔の萌子。

翔子「(奈々を睨みつけて) そんなに勝ちたいんですか？」

奈々「(冷静に座ったまま) 何のこと？」

翔子「卑怯じゃないですか。真谷さんの力借りるなんて」

奈々「別に借りたわけじゃないわ。メインはあくまで私。ペアで踊ればああいうふうになる

だけよ」

翔子「正々堂々って言いましたよね」

奈々「真っ向からかかってらっしゃって言ったの。それに私のダンスのどこが卑怯だって言うの？」

翔子「ペアだなんて聞いてません。メドレーが使えるとも聞いてません」

奈々「変な言い方がかりやめてよ。オールデイーズで女性が踊るのよ。ペアで当然でしょ？
あなたみたいにプレスリーの真似すれば別だ

けど。それに曲の長さにはリミットつけてるけど、与えられた時間内に一曲しか使えないなんてルールはどこにもないわ」

ドアにノックがある。

奈々「(大声で) どうぞ」

ドアが開いて坂本と真谷が血相を変えて飛び込んでくる。

坂本「(翔子と奈々を交互に見て) どうしたんだ？」

奈々「(落ち着いて) なんでもありません」

翔子「(強い口調で坂本に) 支配人、私、奈々さんと闘うのなんとも思ってません。でも、同じルールじゃないとやってられないわ」

奈々「(むっとして) わからない子ね。どこがルール違反だって言うの？」

翔子「(キツとして) シングルとペアでどこが同じだっていうのよ」

坂本「(間に入って) まあまあ二人とも。そこのところ曖昧にしてたのは俺の責任だ。謝るよ。今後はこういう誤解がないようにするから今日のところは機嫌直して」

奈々「(冷たく翔子に) 来週はペアズナイトよ。忘れないでね」

翔子、奈々を睨み付けると、さっとUターンして出て行く。

後を追う萌子。

渋い顔の坂本。

知るもんかという表情の真谷。

薄ら笑いを浮かべた奈々の顔が強張って見える。

34 同・ダンスフロア〜テーブル

翔子と萌子が座っている。目の前に飲みかけたドリンク。

挿入歌（SHOUT）が流れている。
踊る男女達。

お立ち台のダンサー達。

翔子「（憤慨して）ペアなんて一週間でやれっ
ていうの？」

萌子「（同情して）ひどいよね。言ったら？」

一週間じゃ出来ませんか？」

翔子「いまさら悔しいわ、そんなの」

萌子「支配人、奈々の味方なのかな」

翔子「明らかにね。（ダンスフロアを見ながら）

あゝあ、誰かいい人いないかな」

加藤勝がテーブルに来る。

勝「よう！」

勝、なれなれしく萌子の肩に手をかけて
隣の席に座る。

萌子、迷惑そうにおもむろに勝の手を自
分の肩から外す。

勝「（萌子に）踊らない？」

萌子「それどこじゃないのよ」

勝、怪訝な表情。

萌子「（勝に）ねえ、このディスコのベストダン
サーって誰？」

勝「（にやりと笑って翔子を見て）そりゃ、翔子
ちゃんだな」

翔子「（ドリンクを持ち上げながら）ありがと〜」

萌子「（勝に）馬鹿ね。男子のこと言ってるの」

勝「何でだよ？」

萌子「来週、ペアズナイトでしょ。それで翔子が
パートナー探してるの」

勝「ペアズナイト？」

萌子「そう」

勝、納得したようにあたりを見回してから自分を指差す。

萌子「(勝の肩を押して) もう、真面目に考えてよ」

勝「(笑いながら) 悪い、悪い。やっぱ進也かな」

萌子、露骨に嫌な顔をする。

翔子「(萌子に) 進也って?」

萌子「最近、見ないけどキザな女だったらしよ」

翔子「(勝に) 連絡つく?」

勝「ああ、つくよ」

萌子「(翔子に) ちょっと、マジで言ってるの?」

頷く翔子。

勝、携帯を取り出し電話する。

何かしゃべっているが聞こえない。

勝「(電話を切って) 明日、来るってさ」

萌子、心配そうに翔子を見る。

薄ら笑いを浮かべている翔子。

35 坂本琢磨のマンション・ベッドルーム

(深夜)

ナイトガウンをひっかけ、ベッドから出る奈々。

闇に浮いた半裸の姿態が眩しい。

隣に坂本が寝ている。

奈々、ゆっくり窓まで歩き、薄地のカーテンを開けて外を眺める。

高層マンションから見た東京の夜景が煌めく。

坂本の声「どうしたんだ?」

振り向く奈々。

坂本が半身を起こしてヘッドボードに寄り掛かっている。

奈々「(夜景に目を向けて) 別に」

坂本「眠れないのか？」

奈々「(しんみりと) 私、あの子に勝てるわ」

坂本「わかってるよ」

奈々「(振り向いて) ならどうして正々堂々と

勝負させてくれないの？」

坂本「(狼狽したように笑って) させてるじゃないか」

奈々「(不満そうに) してないわ。あの子が言ったこと、正しいわ。私、卑怯だった」

坂本「急に何言ってるんだよ。演出だって勝負のうちだって言ったのは君だぜ。メドレーのどことが卑怯なんだよ・・・ペアの」

奈々「(強い語調で坂本を遮って) とにかく、これからは私の思うようにするから。変なアイデア出さないで」

坂本「あれは健二が・・・」

奈々「(再び遮って) とにかく、それが嫌なら、私降りるわ」

返す言葉もなく奈々を見つめる坂本。

強い視線で坂本を見返す奈々。

36 デイスコ「エリシウム」・表(翌日の夜)

ネオンに輝く巨大な外壁。

表に停まっている高級車の一群。

着飾った男女が次々と階段を上がり、店内に吸い込まれていく。

37 同・DJブース

ミキシングボードの後ろに座るジョージ
富田。

ジョージ富田「(元氣よく) 今夜も当エリシアム
にご来店いただきましてどうも有難うございま
す。スタッフ一同、感謝で一杯です。さあ〜じ
ゃ元氣に行きましょう！」

挿入歌 (GONNA MAKE YOU
SWEAT) 始まる。

38 同・ダンスフロア〜お立ち台

踊る男女達。

お立ち台のダンサー達。中に翔子と萌子
の顔。

X X X

挿入歌 (LIVIN' LA VIDA
LOCA) が流れる中―

激しいダンスを続ける男女達。

お立ち台の上の翔子の身体にも汗が光っ
ている。

萌子が翔子のお立ち台の階段を上がり、
翔子の肩を叩いてフロアを見るように合
図する。

踊る若者の群れの中に、一人極めて派手
な踊りをしている長身痩躯の男がいる。

井垣進也 (二六歳) である。

萌子、翔子に耳打ちする。

踊りながら頷く翔子。目は井垣に釘付け
になっている。

39 同・ダンスフロア〜テーブル

挿入歌 (MANBO NO5) が流れて
いる。

翔子と萌子が座っている。目はダンスフロアに向いている。
踊っている井垣。

ヤンキー風の髪形に日に焼けた精悍な顔をしている。

踊りは極めて上手い。

萌子「(翔子に) いいの?」

翔子「(頷きながら) あとはペアで踊れるかね」

翔子、携帯を出して誰かに電話する。

萌子「リクエスト?」

翔子、ニッコリ笑って頷く。

萌子「練習なしで彼と踊るつもり?」

翔子「スタンダードだから踊れるはずよ。センスがよければだけど。真谷さんもそう言うたでしょ? 才能があればリハーサルは必要ないって」

翔子、萌子にウィンクすると、すっとテーブルを離れ、ダンスフロアへと向う。
見守る萌子。

40 同・三階ダンスフロア・テーブル

奈々が階下のダンスフロアへと向う翔子をじっと見ている。

41 同・ダンスフロア

挿入歌 (YOU・RE THE FIRST, THE LAST, MY EVERYTHING) 開始。

曲のイントロと共に、井垣に歩み寄り、肩を叩く翔子。

井垣、「待ってました」というように翔子を見てニヤリと笑う。

4 2 同・三階ダンスフロア・テーブル
奈々、翔子と井垣を見下ろしながら、携
帯で何か真剣に話している。

4 3 同・ダンスフロア
初めはぎごちない二人であるが、曲が進
むにつれて次第に興に乗ってくる翔子と
井垣。
所狭しと動き回る二人に見とれる客達。
手拍子が始まる。

4 4 同・ダンスフロア・テーブル
楽しそうに翔子と井垣を見ている萌子と
勝。

4 5 同・三階ダンスフロア・テーブル
そこに奈々の姿はもうない。

4 6 同・ダンスフロア
踊り続ける翔子と井垣。
曲が終わると、場内から拍手が起こる。

4 7 同・ダンスフロア・テーブル
ニコニコして拍手をする萌子と勝。
翔子、井垣の手を引いてテーブルに戻っ
てくる。

4 8 同・ダンスフロア
奈々と真谷、次の曲のイントロが始まる
と同時にダンスフロア中央に現れる。
挿入歌 (H E A V E N M U S T B

E MISSING AN ANGE

L) 開始。

奈々と真谷、淀みないペアダンスを始める。

49 同・ダンスフロア〜テーブル

翔子、ライバル意識も露に、奈々と真谷を見つめる。

井垣、リズムを取りながら薄ら笑いでダンスと翔子を交互に見ている。

50 同・ダンスフロア

踊り続ける奈々と真谷。非の打ち所のないダンスである。

51 同・ダンスフロア〜テーブル

奈々と真谷を凝視している翔子、萌子、勝と井垣。

井垣「(翔子に) それにしてもダンスコンペなんて下らねえこと始めたもんだな」

翔子「(むっとして) どうして下らないの?」

井垣「ダンスなんて楽しきやいいもんだろ?」

競争するもんじゃない」

萌子「翔子に協力しないって言うの?」

井垣「(皮肉に笑って) ただじゃ嫌だね」

翔子「(踊る奈々と真谷を見ながら井垣に)

ねえ、今、完璧に踊れる曲ある?」

井垣「(にやつと笑って) なんで?」

翔子「(真剣に) いいから」

井垣、翔子に耳打ちする。

翔子、素早く携帯を出し、電話する。

それから萌子に耳打ちする翔子。

勝に耳打ちする萌子。
頷く勝。

翔子と萌子、ダンスフロアを見て満足そ
うに微笑む。

52 同・ダンスフロア

奈々と真谷のダンスが終り、場内から再
び拍手が沸き上がる。

即座に始まる次曲のイントロ。

挿入歌(ON THE RADIO)開
始。

場内から歓声が上がると同時に、フロア
中央に飛出す翔子と井垣、萌子と勝。

奈々と真谷、渋谷場所を空ける。

ダンスを始める翔子と井垣、萌子と勝、
そして奈々と真谷の三組。

いずれも甲乙付けがたいダンスを繰り広
げる。

ダンス終了と同時にやんやの喝采に場内
は揺れる。

53 バー・店内(深夜)

ドリンクを前に、カウンター席に座った
翔子と井垣。

井垣「(ふてくされたように)一週間足らずで

真谷健二と大瀬奈々の向こうを張るなんて

無理な話だぜ」

翔子「だから言ってるでしょ？ あの二人だっ
てそんなに練習する時間なんてないはずなの」

井垣「ちよつと待てよ、まだやるって言って

ねえだろ。第一、お前等は給料貰ってやっ
てることだろ？ 俺だけただ働きじゃ割に

あわねえぜ」

翔子「エリシウムで働きたいってこと?」

井垣「(鼻で笑って) 馬鹿言うな。ダンスで

飯食うほど落ちぶれてねえよ」

翔子「じゃ、私にお金出せって言うの?」

井垣、にやっと笑って首を振る。

翔子「(不快そうに) 何が欲しいの?」

井垣、黙って翔子を指差す。

54 井垣のスタジオマンション・中(深夜)

ベッドに裸の上半身を起こして座っている翔子。

バスルームから腰にタオルを巻いた井垣が裸で出てくる。

均整のとれた筋肉質の肉体である。

翔子を見てにやりとする井垣。

翔子は無表情である。

井垣「(ベッドに歩きながら) こんなに簡単だとは思わなかったな。そんなに勝ちたいのか?」

翔子「(表情を変えず) 黙ってベッドに入ったら?」

井垣、翔子の目の前でタオルをさっと自分の腰から取る。

思わず顔を背ける翔子。

井垣「(うすら笑いして) 言われなくとも」

ベッドに入る井垣。直ぐに翔子の肩に手をまわし、キスをする。

翔子は反応しない。

井垣、シーツを剥がし、翔子の裸体を露にする。

井垣「(驚嘆して) 完璧だな」

翔子の身体に接吻しはじめる井垣。

全然、反応しない翔子。

井垣「(不満そうに) どうしたんだよ？」

翔子「(無表情で) 別に」

井垣「(いやらしく笑って) まさかバージンとか言うんじゃないだろうな」

翔子「(怒った顔で) 余計なこと言わずに早くしたら？」

井垣、堰を切ったように翔子の身体にキスを浴びせる。

まったく反応しない翔子。

井垣、翔子の顔を見て、諦めたようにベツドに仰向けになる。

井垣「(いらついて) 冗談じゃねえぜ。そのままじっとしてるつもりかよ」

翔子「抱ければいいんでしょ？」

井垣「(半身を起こし翔子を見て) 感じてくれなきゃ面白くも何ともねえよ」

翔子「(シートで自分の身体を隠して) 好きでもない人にどうして感じるの？」

井垣「俺に抱かれてえ女は五万といるんだぜ。

抱いて貰えるだけ有難いと思えねえのかよ？」
翔子「(薄ら笑いを浮かべて) 私を抱きたい男はその十倍はいるわ。勘違いしないで。私と寝

たいって言ったのはあなたよ。私はあなたと寝たいなんて思ってない。踊りたいと思ってるだけ」

井垣、頭を抱えて仰向けになる。そして笑いだす。

井垣「驚いたな。俺に抱かれたくねえのにベツドに入ったのか。レイプでもされたらどうするつもりだったんだよ？」

翔子「(不敵に) 私、そんなに甘くないわ」

井垣「(半身を起こし真面目な顔で) 何でそんなに勝負に拘るんだ? たかがディスクなんだぜ。金儲けに使われてるだけじゃねえか」

翔子「(冷たく) 嫌ならいいのよ。他の人探すだけだから」

翔子、ベッドから出て服を着始める。

井垣「俺以上のパートナーなんて見つかるもんか。それにもう時間がないんだろう?」

翔子「かもね。でも、どうせたかがディスクだから」

井垣、再び仰向けに寝て笑いだす。

井垣「負けたな。わかったよ。協力するよ」

井垣、半身を起こし、服を着終わる翔子をじっと見つめる。

翔子「(淡々と) 明日、朝八時にスタジオに来て。待ってるわ」

翔子、ハンドバッグを手にくるりと翻り部屋から出ていく。

ぽつんと取り残されようにそれをベッドから見ている井垣。

55 ダンススタジオ・中(朝)

がらんとしたスタジオにレオタードで立つ翔子とタイト姿の井垣。

井垣の翔子を見る目が昨夜とは打って変わって真剣である。

挿入歌(DON'T STOP・TIL YOU GET ENOUGH)が始まりペアで動き出す二人。

56 練習する翔子と井垣のモニタージュ

前シーンと同じ曲をバックに――
スタジオで練習に汗を流す翔子と井垣。
日中の銀座を歩きながらダンスのステップを復習する翔子と井垣。

夜の六本木を歩きながらステップを確認しあう翔子と井垣。

井垣の愛車フェラーリの中で、楽しそうにリズムを取る翔子と井垣。

ビルの屋上で練習に励む翔子と井垣。

客のいない野球場でステップを復習する井垣と翔子。

神宮外苑の銀杏並木の下で練習する井垣と翔子。

スタジオに見物に来て、拍手する萌子と勝。

挿入歌終了。

57 ディスコ「エリシウム」坂本のオフィス

ソファに座っている坂本とその前を行ったり来たりしている真谷。

真谷「(熱心に) 大きくなりすぎてますよ。実況のテレビカメラを入れるなんて」

坂本「まだ決めたわけじゃないさ。だけど、宣伝としては申し分ないと思うけどな」

真谷「これ以上宣伝なんて必要ないでしょ。ただでさえ定員オーバーで客に帰ってもらってるんですよ」

坂本「(笑って) 大成功だな」

真谷「それですよ。大成功だけど、この後どうするんですか？ 後の企画があるんですか？

これ以上の企画が」

坂本「(両手を広げて) いや、何もない」

真谷「そうでしょ？ ネタが尽きますよ。それに客だって飽きてくる。飽きて客が離れたらどうするんですか？」

坂本「永久に続くものなんかないさ。俺はそれはそれでいいと思う。一時代を作って燃え尽きればいいんだ。ダンスは芸術だ。ディスコだって芸術だ。それを世の中の人に見て貰えればそれでいいと思う。健二には悪いが、俺はこのディスコと心中するつもりでいるよ」

真谷、立ち止まり、黙って坂本を見る。
その顔に理解と共感がある。

58 同・表（数日後の夜）

外に高級車に混じってテレビの実況中継の車が停められている。

ビルの外壁に巨大なテレビスクリーンが設置され、ディスコ「エリシウム」の内
部が鮮明に映し出されている。

それを見上げている多くの通行人達。
ビルの中へと急ぐ着飾った男女達。

59 同・店内・ダンスフロア／お立ち台

挿入歌（COPACABANA）が流れている。

フロアで踊る客。ペアが多い。
お立ち台で踊るダンサー達。

既にテレビ中継は始まっている。
数台のテレビカメラがダンスフロアの
ここに設置されている。

カメラの前にマイクを持って立ち、なに
やらきんきん声でわめいている女子アナ。

60 同・翔子の控室

部屋の中を歩き回りながら、頭の中でステップをもう一度復習っている翔子。その顔になみなみならぬ決意がある。

61 同・奈々の控室

ヘッドフォンをして、リズムを取っている奈々。気持ちを落着かせようとしている。

62 同・ダンスフロア〜お立ち台

踊る若者達。

お立ち台で踊るダンサー達。

それを舐めるように映し出していくテレビカメラ。

63 同・DJブース

ダンスフロアを期待に満ちた表情で見つめるジョージ富田。

64 同・三階ダンスフロア・テーブル

ドリンクを手に坂本が座っている。

階下を見下ろし、盛況に満足そうな坂本。

65 同・ダンスフロア〜二階踊り場

曲、(CAPACABANA) が終わる

と同時に、二階踊り場にくつきり浮かび上がる奈々と真谷の姿。

場内から拍手が湧き、溜め息が漏れる。

挿入歌 (THE WAY YOU M

AKE ME FEEL) 開始。

いつになく肌を多く露出させた挑発的な

コスチュームをまとった奈々の女性的な踊りと真谷の男性的な踊りが華麗にマッチする。

66 同・外観(夜)

巨大スクリーンの前に立ち止まり見上げる群衆。

ネット配信されている場内の様子を携帯のスクリーンに映し出している人々。
音楽に合わせて彼等の身体も動いている。

67 同・ダンスフロア(二階踊り場)

踊り続ける奈々と真谷。
見とれる観客達。

ダンス終了後、間髪を入れずに次曲のイントロが始まる。

68 同・ダンスフロア(第一お立ち台)

挿入歌(BABY BOY)開始。
スポットライトに照らし出される翔子と井垣。

翔子も奈々に負けず劣らず肌を見せている。井垣はゆったりした服装。

再び場内から漏れる歓声。
ブレイクダンスを取り入れた斬新な踊りが始まる。

69 フラッシュ(夜)

ベッドで抱きあう翔子と井垣。
翔子の顔に快感の表情。

70 元の第一お立ち台

翔子と井垣の激しい踊りが繰り広げられている。

7 1 同・外観(夜)

巨大スクリーンを見上げ、手に持った携帯のスクリーンに見入りながら乗りに乗る群集。

7 2 同・ダンスフロア(第一お立ち台)

佳境に達する翔子と井垣。

7 3 フラッシュ(夜)

ベッドで井垣に抱かれエクスタシーに達する翔子。

7 4 元の第一お立ち台

尚も続く翔子と井垣のダンス。
酔ったようにどよめく観客。
ダンスが終わると割れるような拍手。

7 5 レストラン・店内(昼)

対面して座している翔子と萌子。
テーブルの上には豪勢な食事。
二人とも猛烈な勢いで食べている。
あきれ顔で周囲の客が見ているが、
二人は頓着しない様子。

萌子「私も含めて六人は確実にこっちの味方よ」

翔子「じゃあ七人は奈々のほうに行くってこと
ね」

萌子「そういうこと」

翔子「人気あるのね」

萌子「ねーっ、驚きよね。あんな高慢な年増

女のどこがいいわけ？」

翔子「(可笑しそうに笑って)そこまで言うかな」

萌子「(笑って)だってそうじゃない？」

翔子「カリスマよ。やっぱりスターになるだけの風格みたいなのがあるのよ」

萌子「私にはわからないけど」

翔子「でも、やる気のない人と一緒に踊ってもしようがないし。あっちに七人、こっちに六人で丁度いいんじゃない？」

萌子「(声を落として)それより、彼とどうなってるの？」

翔子「(きょとんとして)彼って？」

萌子「井垣進也」

翔子、笑って食事を続ける。

萌子「言いたくないなら聞かないけど」

翔子「(少しはにかんで)そうじゃないの。彼とは、まあ友達かな」

萌子、意味深な表情で翔子を見つめる。

翔子「(恥ずかしそうに笑って)よしてよ。彼は彼。私は私。今はそれでいいの」

そのまま二人は黙々と食事を続ける。

76 ディスコ「エリシウム」ダンスフロア

(数日後の夜)

テレビカメラが場内を熱く見据えている。

ジョージ富田の声「さあ皆さん、夜も深まってまいりました。でも明日は日曜日。まだまだこれからですよ。今夜は夜を徹して踊っちゃいましょう！」

場内から賛同の歓声。

挿入歌 (SHAKE YOUR BODY)

Y)が始まる。

踊り始める若者たち。

中に井垣進也の顔、加藤勝の顔。

77 同・ダンスフロア〜二階踊り場

ジョージ富田の声「皆さん、お待ちかねでした。当、エリシアムが誇るダンシングエンジェルスです。たっぷり魅了されて下さい。二階踊り場だよ〜」

二階踊り場が照らし出され、そこにボーイッシュな衣装を着た翔子と六人のダンサー達。

場内から歓声が上がリ、テレビカメラが一斉にダンサー達にフォーカスする。

挿入歌(VOGUE)開始。

音楽に合わせて息の合った踊りを始める翔子とダンサー達。

78 同・外観(夜)

ディスクの前に集り巨大テレビスクリーンを見上げる群衆。
手にした携帯画面に見入る人々。

79 同・DJブース

翔子達の踊りを笑顔で見つめるジョージ富田。

80 同・ダンスフロア〜二階踊り場

完璧なチームワークの翔子とダンサー達のダンスは続く。
見とれる観客の顔。
誇らしげな井垣進也と加藤勝の顔。

翔子達のダンス終了と同時に一階のダンスフロアになだれ込むミリタリールックの奈々と七人のダンサー達。
歓声が上がリ、ライトとテレビカメラが一度に焦点を一階に移す。
挿入歌 (RYTHM NATION) 開始。
一糸乱れぬ踊りを見せる奈々とダンサー達。

81 同・外観(夜)

巨大スクリーンに映し出された奈々とダンサー達の踊りに釘付けになる群衆。
携帯画面に見入ったり、自撮りする人々。

82 同・ダンスフロア

奈々とダンサー達のダンスを観客に混じって満足そうに見つめる坂本と真谷。
ダンス終了と同時に拍手と歓声に揺らぐ場内。

はじめてニッコリ笑う奈々とダンサー達。

83 同・廊下(同夜)

着替え終わって帰り支度をした翔子が廊下を歩いている。
控室から同じく着替え終わった奈々が出てくる。

目を合わせず、足早に歩き過ぎようとする翔子。

翔子「(軽く会釈して) お疲れ様でした」

奈々「神谷さん」

翔子、立ち止まって振り向く。

翔子「はい」

奈々「(真顔で) 良かったわ、今夜のダンス」

翔子「(驚いて) そうですか」

奈々「振り付け、自分でしてるんでしょ？」

翔子「はい」

奈々「大したもんね」

翔子「いいえ、素人ですから」

奈々「来週またソロね」

翔子「はい」

奈々、手を出して握手を求める。

翔子、一瞬戸惑いながらも、その手を取る。

奈々「(微笑んで) 負けないわよ」

翔子「(微笑んで) 私も」

熱く見つめあい、そして別れる奈々と翔子。

84 ダンススタジオ・中(朝)

朝の日差しが半透明のガラス窓から差しこんでスタジオ内を明るくしている。

レオタード姿でバレリーナのような柔軟体操をしている翔子。

そこに普段着で駆け込んで来る萌子。

萌子「(緊張した顔で) 翔子、聞いた？」

翔子「なんのこと？」

萌子「奈々、入院したらしいわよ」

翔子、驚いて柔軟体操を止める。

翔子「入院？」

萌子「うん、今朝方らしいけど」

翔子「(心配そうに) どうして？」

萌子「わからないの。誰も知らないらしいの」

翔子「真谷さんや支配人は？」

萌子「顔をしかめて」二人とも捕まらない
のよ。病院に行ったんじゃないかな」

翔子「どこなの？ 病院」

萌子「それもわからないの」

翔子、ぱっとタオルを拾って出口へと向
う。付いていく萌子。

85 ディスコ「エリシウム」翔子の控室

ダンスナンバーの身支度をしている翔子。

ドアにノックがある。

翔子「(振り向いて) はい」

ドアを開けて真谷が顔を覗かせる。

翔子「(意外な表情で) 真谷さん」

真谷「支度できてからでいいから支配人のとこ

ろに来て」

翔子「はい」

真谷、首を引っ込めてドアを閉める。

不審顔の翔子。

86 同・ロッカールーム

着替えをしているダンサー達。

愛「(絵里子に小声で) ねえ絵里子、聞いた？」

奈々さん、自殺未遂らしいわよ」

回りのダンサー達がぎよつとして愛を見
る。

絵里子「誰に聞いたの？」

愛「正美が言ってた」

萌子「正美の言うことなんて信じちゃだめよ。

変な噂になるからそんなこと言わないほう

がいいわよ」

正美が入ってくる。

自分のロッカーを開ける正美。

萌子「(睨み付けて) 正美、奈々さんのことどこで聞いたの?」

正美「なんのこと?」

萌子「(喧嘩っぽく) 自殺未遂だって誰が言ったの?」

険悪な空気に他のダンサー達が動揺する。

正美「(つんつとして) 誰にも聞いてないわ。

最近、悩んでたみたいだからそうじゃないかなって思っただけよ。支配人とのこともあるしね」

正美、栄子を見て低く笑うが栄子は相手にしない。

萌子「(強く) 変な噂が立つと私達みんなが迷惑するから、やめてくれない?」

正美「(反発して) 別に言いふらしてるわけじゃないわ。でも自殺未遂以外にこんなに秘密にする理由がないでしょ」

萌子「いいから余計なこと言うなって言ってるの」

正美「なんであんたにそんなこと言われなきゃならないんだよ」

萌子「私が言わなきゃ誰も言わないだろ。大体、お前いつもムカつくんだよ」

正美「なんだって? もう一度言ってみろよ!」

萌子に掴みかかる正美。
髪を引っぱり取っ組みあう二人を止めに入るダンサー達。

87 同・坂本琢磨のオフィス

デスクの後ろに坂本、ソファに真谷が座り、部屋の中央に翔子が立っている。

坂本「(勤めて明るく翔子に) ま、そういうわ

けで奈々が元気になって戻って来るまで君にリーダーシップを取って貰いたいんだ」

翔子、納得しないように黙って真谷を見る。

真谷「(翔子を見上げて) いろいろ不満もあつたかもしれないけど、俺もお互い水に流して頑張っつていきたいって思ってるんだけどね」

翔子「(坂本に) でも、納得しない子もいると思えますけど」

真谷「それはちゃんと言って聞かせるから」

坂本「(ぎこちなく笑って) 君についてこないダンサーは辞めて貰うから、それは君が心配することじゃない」

翔子、また真谷を見る。

坂本「ただ、今までダンサー達は真谷君の振り付けでやって来たわけだから、そのところは君が譲歩して真谷君に継続してやらせてやって欲しいんだけどね」

翔子「(ちらつと真谷を見て) それは構いませんけど」

翔子、少し躊躇して

翔子「あの、奈々さんどうして入院なさったんですか？」

一瞬、気まずそうに顔を見合わせる坂本と真谷。

坂本「(表情を曇らせて) 病気なんだ。今、検査中だから、その結果が出るまで病名はふせておきたい」

翔子「わかりました」

坂本「ああ、それからもちろん奈々が復帰するまで、例のコンペティションはお預けということになるけど」

翔子「わかりました」

坂本「それじゃ、今日もがんばって」

翔子、ペコリと坂本と真谷に頭を下げて部屋を出る。

意味あり気に顔を見合わせる坂本と真谷。

88 同・ダンスフロアへお立ち台(夜)

挿入歌 (GOOD VIBRATION)
が流れている。

踊る客、そして翔子を含めたお立ち台の上のダンサー達。

89 井垣進也のスタジオマンション・中

(深夜)

ベッドに裸で横たわっている翔子と井垣。

翔子「はつきり言わないのよ。なんで入院したのか」

井垣「盲腸とかじゃねえのかな」

翔子「盲腸なんか秘密にする必要がある?」

井垣「(翔子の髪を撫でながら) お前、奈々のこと好きなんだな」

翔子、驚いたように井垣を見る。

翔子「尊敬してるわ、彼女のこと」

井垣の胸に頭を預ける翔子。不安そうな目がぱつちりと開いている。

90 ディスコ「エリシウム」ダンスフロア

へお立ち台(数日後の夜)

挿入歌 (MUSTANG SALLY)

と共に、男性的なコスチュームを身にまとい、息の合った踊りをそれぞれのお立ち台の上で見せるダンサー達。

その中心にいる翔子。
フロアで踊る若者達。
ダンサー達を見つめるテレビカメラと観
客。自撮りする観客。

9 1 病院・奈々の病室(夜)

点滴を受けながら個室のベッドでテレビ
を見ている奈々。
テレビ画面には翔子達のダンスナンバー
が映し出されている。
疲れた表情であるが、好意的な笑みが奈
々の顔に浮かんでいる。

9 2 ディスコ「エリシウム」ダンスフロア

〜お立ち台(同夜)

挿入曲(MUSTANG SALLY)
と共に踊り続けるお立ち台のダンサー達。
踊るフロアの客。ダンサー達に見とれる
客。

9 3 翔子の部屋(午前中)

ベッドに半裸でうつ伏せに寝ている翔子。
枕元の携帯が鳴る。

翔子「(眠そうに) はい」

坂本の声「翔子ちゃん？」

翔子「そうですけど」

坂本の声「坂本だけど」

翔子「(顔を上げて) はい」

坂本の声「起こして悪かったね」

翔子「いいえ」

坂本の声「実はね、奈々が会いたいって言うて
るんだ」

翔子「(起き上がって) はい？」

坂本の声「病院に来てくれないかな」

翔子「(不安な顔で) わかりました」

翔子、携帯を耳に、何度も頷く。

携帯を切り、立ち上がってブラインドを

開けると外は快晴である。

対照的に悲しそうで落着かない翔子の横顔。

94 病院・正面玄関表(午前中)

井垣の車が停まり、翔子が飛出す。

そのまま駆け足で玄関の中に消える翔子。

95 同・奈々の病室(午前中)

明るい病室である。

ベッドの上に奈々が目をつぶって寝ている。

テレビは消えている。

ベッドサイドの花瓶には色とりどりの季節の花。

それとは対照的に色が蒼白くやつれた奈々の顔。

腕の点滴の管が痛々しい。

翔子、奈々のそばに歩いて行き、覗き込む。

翔子「(小声で) 奈々さん」

ぱっと目を開く奈々。

翔子を見て、嬉しそうに微笑む。

奈々「(弱々しく) 来てくれたのね」

伸びてきた奈々の手を、しっかりと握る

翔子。いつになくか細い腕である。

奈々「(しんみりと) 私ね、もう、駄目らしい

の」

翔子「何言ってるんですか？ 奈々さんらしくないわ」

奈々「自分でわかるわ。入院してから日増しに悪くなっていくの」

翔子「そんなことないわ。きっと元気になってまた踊れるようになるわ」

奈々、小さく笑って起きようとする。

翔子「いいんですか？」

奈々「大丈夫。起こして」

ベッドの脇のスイッチを入れるとベッドがせり上がり、奈々の上体が起きる。

奈々「(ニッコリして) あなたのことちゃんと見たいから」

しみじみと翔子を見る奈々。

奈々「綺麗ね、やっぱり」

翔子「(狼狽して) そんな」

奈々「こないだね、(テレビを指差して) あなたのダンス見たの」

翔子「そうなんですか？」

奈々「とつてもよかったわ。チームワークが取れてて」

翔子「(明るく) 奈々さんに褒めてもらうと安心します」

奈々「でもあれ、健二の振り付けでしょ？」

翔子「はい」

奈々「もつと自由にやってもよかったのに」

翔子「みんな奈々さんが帰って来るの待ってます。だから早くよくなって下さい」

奈々「(小さく笑って) 優しいのね。でも、私

はもう駄目。病名も教えてくれないの。悪い証拠でしょ？」

翔子「過労だから休めば良くなるって聞きました」

奈々「(真剣に) 気休め言わないで」

翔子、気圧されて黙ってしまふ。

奈々「(悲しい顔で) 私、あなたと一緒に踊ってみたかった。別々じゃなくて、一緒に同じステージで。でも、これからは私のぶんも頑張るって」

翔子、泣きそうな顔で奈々の手をがっすり握り直す。

翔子「奈々さん、諦めないで下さい。私、奈々さんのこと信じてますから。きっと元気になれるって信じてますから。そしたら一緒に踊りましょう？ 一緒に踊って世界をあつと言わせてやりましょう？」

翔子の目から流れ落ちる涙。

黙って頷く奈々。その目にも涙が光る。

96 デイスコ「エリシウム」ダンスフロア

くお立ち台(夜)

音楽はかかっていない。

ざわざわとしている着飾った群衆。

突然、中央お立ち台の上にライトが当たり、マイクを手にした翔子の姿が現れる。パラパラと拍手が起るが、翔子の只ならぬ様子に直ぐに鎮静してしまふ。

翔子「(震える声で) 皆さん、高いところから失礼します。ダンシングエンジェルの神谷翔子です。今夜、こうして皆さんにお話ししているのは、皆さんにお願いがあるからです。私達のリーダー、大瀬奈々が今、重病と闘っています」

フロアからどよめきが聞こえる。

翔子「急性白血病で、骨髄移植をしないと助からない病気なんです」

フロアから悲鳴にも似た声上がる。

翔子「それでお願いなんです、どうか明日、皆さんと骨髄バンクに登録していただきたいんです。私達、ダンシングエンジェルも朝一に登録します。ですから皆さんも、どうかお友達を誘って登録して下さい」

深々と頭を下げる翔子に場内から大きな拍手と声援が浴びせられる。

顔を上げた翔子の頬を涙が伝って落ちる。

97 ダンススタジオ(昼)

曇りガラスから差し込む陽光でスタジオ内は明るい。

そこにレオタード姿の翔子が一人。

真剣な眼差しでステップを練習している。額に汗が光るが、翔子の顔は暗い。

98 デイスコ「エリシウム」奈々の控室

がらんとした控室に翔子が一人。

物憂そうに部屋の中を眺めながらゆっくり歩く翔子。

鏡の前に投げ捨てられたような口紅を見つけて手に取る翔子。

キャップを取ると、半分使った赤い口紅。悲痛な表情の翔子。

ロッカーの前で立ち止まり、ドアを開けると下に履き古されたバレエのトゥシューズがある。

拾い上げる翔子。

靴の下に、手の平大の奈々の写真を見つ
け、はっとした顔で写真を手に取る翔子。
にこやかに笑っている奈々の写真。
翔子、目を閉じてトウシューズと写真を
自分の胸に押し付けると静かに部屋を出
る。

99 同・廊下・奈々の控室の外

控室から出て来た翔子と廊下を歩いて来
た真谷がはち合わせする。

翔子「あっ」

真谷「(怪訝な表情で) ああ、君か」

真谷、控室のドアの横の奈々の名札を見
て

真谷「(しんみりと) これから寂しくなるな」

翔子「そうですね」

大きな溜息をつく真谷。

翔子「支配人は？」

真谷「このとこずっと奈々につきっきりで、ほ
とんど寝てなかったからな。今日はさすがに
来ないだろう」

翔子「そうですか」

真谷「君はどうすんの？」

翔子、意味がわからず真谷を見る。

真谷「もう君がここにいる理由もないんじゃない
いか？」

翔子、きりつと顔を上げて

翔子「真谷さん、私、首になるまで踊り続ける
つもりです。奈々さんと約束したんです」

翔子、ニコツと笑って会釈をすると、そ
のまま真谷を残して大股に歩き去る。

100 同・廊下

コスチュームに身を包みしつかりした足取りで歩いて行く翔子。

顔を上げ、表情は明るい。

ロッカールームのドアが開き、萌子と正美を先頭にコスチュームを着たダンサー達が次々と出てくる。

翔子の後に編隊を組むように続くダンサー達。

皆、しっかりと前を見すえ、微笑みを浮かべている。

101 同・ダンスフロア〜お立ち台(夜)

フロアに溢れる男女。

お立ち台に上がるダンサー達。

中央お立ち台にマイクを持った翔子。

翔子「(明るく) みなさんこんばんは！」

フロアから挨拶が返って来る。

翔子「(耳をすますしぐさで) 声が小さいですよ。こんばんは！」

フロア全体から大きな声で「こんばんは〜」が返る。

翔子「今夜もダンシングエンジェルスをよろしくお願いします。私達、明け方までお付き合いますよ〜」

お立ち台のダンサー達から同意の奇声がかかる。

フロアからは拍手と歓声。

翔子、片目をつぶり、拳銃を撃つようなしぐさでDJブースを指差して

翔子「それじゃ、ジョージ、よろしくね〜」

102 同・DJブース

ジョージ富田「(明るく) はい、翔子ちゃん、僕も今夜は声が嗄れるまでお付き合いますよ。それじゃみなさん、ワン、ツー、ワン、ツー、スリー、フォー！」

103 同・ダンスフロア〜お立ち台

挿入歌 (WALK LIKE AN

EGYPTIAN) 開始。

歓声と共に踊り始めるフロアの男女達。

中に井垣進也や加藤勝の顔。

同時に踊り始めるお立ち台の翔子とダンシングエンジェルズ。

X X X

挿入歌 (IT'S RAINING

MEN) が流れて

踊り続けるダンサー達。

そして客。

X X X

挿入歌 (ROCK IT) が流れている。

フロアで踊り続ける若者達とお立ち台のダンシングエンジェルズ。

X X X

挿入歌 (SIMPLY IRRESIS

TABLE) が流れセクシーなダンスを

見せるダンサー達。

踊るフロアの男女達。

X X X

挿入歌 (CELEBRATION) が流れている。

踊り続ける客とダンサー達。

104 同・ダンスフロア・入り口付近

じっとダンサー達を見つめる真谷の感動に輝く顔。

105 同・DJブース

フロアを見下ろすジョージ富田の明るい顔。

106 同・ダンスフロア〜お立ち台

尚も踊り続ける若者達とダンサー達。

X X X

中央お立ち台の翔子、汗ばんだ顔で再びマイクを握って

翔子「みなさん、今日は大瀬奈々の為に集まってくれて本当にありがとうございます」

深々と頭を下げる翔子に場内から大きな拍手。

翔子「奈々がいなくなって寂しいけど、（声が詰まる）私達、これからも奈々のぶんもがんばって踊り続けます。みなさんも一緒に踊って下さいね」

再び沸き起こる拍手と声援。

頭を下げる翔子とダンシングエンジェルスの面々。

翔子「今夜、最後のダンスになりました」

場内から「もっと踊りたい」という旨の声がかかる。

翔子「（笑って）また明日にしろってば」

場内から笑い。

翔子、お立ち台のダンサー達を見回して

翔子「（明るく）みんな、いい？」

ダンサー達から威勢のいい返事が返る。

翔子、胸の隙間から先刻の奈々の写真を取り出して見る。

翔子「(つぶやいて) 奈々さん、一緒に踊って下さる」

挿入歌 (LAST DANCE) 開始。

中央お立ち台で踊り始める翔子。

盛大な拍手と共に踊り始めるフロアの若者達。携帯で撮影する客。

お立ち台で踊り始めるダンサー達。

翔子の目に涙が光る。

ストップモーションで踊る翔子の姿が止まる。

107 出演者を除くエンドクレジット

翔子のストップモーションをバックに挿入歌 (I LOVE THE NIGHT LIFE) が始まり、エンドクレジットが流れる。

108 主な出演者紹介のモンターージュ

暗転して、挿入歌 (YMCA) 開始。

続いて挿入歌 (ダイヤモンド) 開始。

その他キャスト・スタッフのエンドクレジット。

—THE END—